

【別紙 2】

議員定数について 各委員からの意見

削減 13人	長谷川愛子委員	何人削減するのかは議論していく。資料を見ると削減を希望する。
	川村和夫委員	1名か3名削減。民主主義の原則は多数決だから奇数。客観的には人口減少に伴う財政力を見たら、削減だと思う。
	坂本奈央子委員	人口減少、議会改革の観点から現状では削減。人口、面積、議員1人当たりの人口換算の結果、2名減が適正と考える。
	内桶克之委員	定数の改正にあたり、議会基本条例の第15条に則り削減する。様々な諸条件からみて、全国的人口7万5千人の平均値が20.6名。21名か20名にすることが適正と考える。
	村上寿之委員	国、県の議員が身を切る改革をしていない中、市議会議員だけがという部分は重く受け止めている。過去の定数の議論で人口7万人ぐらいになったら、減らさなければと思っていた。2名減の20名。
	飯田正憲委員	4年8年12年先を考えた場合、人口減少が非常に進む中、定数は20名が妥当と考える。
	西山猛委員	過去に、定数の条例改正議案を4名減で提出したが、否決された。地域の声が多様性が、と意見が出ているが、行政区の在り方を見直し、議員に頼る形は正しいのか、行政の橋渡しは、議員に忖度をしなければならない、など考えると、納税者が均等に公平にサービスを受けられるとしたら、地域制が一番で、区長制度の見直しと、定数の削減。2名減の20名で次回の選挙は頑張っていきたい。
	石松俊雄委員	議員一人当たりの人口比、人口規模同等の市、財政力指数同等の市、人口産業構造類似の市の比較の中で、20名が笠間市にとって妥当だと思う。委員会体制で6名でも十分議員間討議ができる。
	大貫千尋委員	現状維持か、削減の方向であれば、2名削減。
	大関久義委員	2名削減で、20名。
	小藺江一三委員	人口減少、財政の問題、議員定数を減らすのが当然だと思う。何人削減かは、言えない。
	石崎勝三委員	年長者はやめていく、これからの人は大変ですが、給料は安いほうがいい、市の為にはそういう考え。減らすことは選挙の試練がある。無競争はあり得ない。
	田村幸子 委員長	委員会での議論の人数は6名から7名が妥当。全国的に人口減少は止められない。20名の定数がベストではないかと考える。

現状維持 8人	酒井正輝委員	現状維持。人気票取り有権者アピールなのかなと思ってます。平均が正しいのかどうか。定数を少なくすれば政治がどんどん悪くなるので避けるべき。この定数が最大限公益に結びつくという根拠がでてから議論すべき。
	河原井信之委員	市民の皆さんに、議会の仕組みをよく理解してもらえば、適正数で議論したほうがいいと思うのではないかな。定数については現状維持。
	安見貴志委員	議員活動が見えない議員は要らない、有権者も議員をそこまで知っていない。だから減らせという短絡的な思考で減らせない。議員不在の地域の声が届きにくくなるので現時点で減らすという結論に達しない。
	益子康子委員	7万人台を維持していれば現状維持。人口7万人台を切ったときに、減らすとすれば、2名減。
	林田美代子委員	人口、面積や少子化も気になるが、当面は現状維持。地域性を考えると地域に議員がいらないところもある。議員の役割は市民の皆さんが納めた貴重な税金のチェック機能もある。
	石井栄委員	多様な民意をくみ上げて市政に反映することが大切。22名をさらに削減することは、そこから遠ざかってしまう。議員一人当たりの有権者数からみると、削減する必要はないと考えている。
	畑岡洋二委員	議会のあり様は、まちの活性化のための位置づけにあるとすれば、多様ないろいろな人がいたほうがいい。執行権はないが提案する権利、それが仕事だと思う。人口減に先行して減らすのはマンパワーの減少になる。今の定数で行けるところまで頑張ったほうがいいと思う。
	鈴木宏治 副委員長	計算方法が正しいのか、考えても正解はないというのが結論。減することで、意見の多様性に欠ける。少子化、超高齢化の中、議会の審査力、調査力、専門性などの低下が否めない。市民の声をしっかり市政に届け、公共の福祉に貢献すること。人口7万人を切っていない現状では現状維持。

保留 1人	田村泰之委員	定数については、議員報酬と政務活動費を抱き合わせて考えないと答えは出せないと考える。
----------	--------	--